

玉川上水・野の花だより No. 38

エノコログサ (ネコジャラシ) *Setaria viridis*

東京大学名誉教授 中央大学研究開発機構・機構客員教授

石川 幹子

2026年 9月20日

台風25号の予兆と思われる大雨と強風の中で、「エノコログサ」が、風に揺れています。笹塚緑道の第二号橋の袂の広場です。時を超えて、私たちの暮らしと共にあり、「ネコジャラシ」というニックネームで愛されてきた野草です。

イネ科の一年草で、日本中のいたるところで見られます。高さは40～70cm位で、夏から秋にかけて、ふさふさとした円柱状の花穂をつけます。花穂には、多数の花が密についています。秋雨に煙る姿は、路傍の草とは思えないような優美な姿です。直立し、毅然とした趣のある花穂がある一方で、緩やかに頭をたれ、雨露の雫を優しくうけとめている花穂もあります。



清少納言が「野分のまたの日」と詠んだ、秋の野の風景を彷彿とさせる姿です。

ネコジャラシという愛称は、この花穂で子猫をじゃれさせるからと言われている。秋が深まるにつれ、花穂は次第に枯れ、土にかえっていきます。



エノコログサ (ネコジャラシ) 2026年9月20日 笹塚緑道